

## 学会誌 *Second Language* 執筆要項

本要項は、日本第二言語習得学会の学会誌 *Second Language* への投稿論文の執筆方法と投稿方法について定めたものである。

### 1. 記述言語

論文は日本語または英語で執筆する。

### 2. 字体とフォントサイズ

日本語の字体については、10.5 ポイントの明朝体を使用し、論文中の英語の引用部分は 10.5 ポイントの Century を使用する。英語の論文の字体については、12 ポイントの Times または Times New Roman を使用する。

### 3. 余白

上下左右すべて 3cm 以上、十分な余白を取る。

### 4. 分量

論文のページ数の上限は 30 ページ程度とする。

### 5. 体裁

論文一式は次の要領で整える。

- a. 論文には通しページ番号を付ける。
- b. 第 1 ページには、表題、著者名、所属連絡先を、この順に日本語と英語の両方で書く。
- c. 第 2 ページには表題（第 1 ページと同じ）、英文アブストラクト（150 語から 300 語程度）および日本文アブストラクト（英文アブストラクトと同程度の長さ）を書く。
- d. 第 3 ページ以降に、本文、謝辞、参考文献をこの順に並べる。これらの各項目は別のページに置く。
- e. 図表は本文に埋め込む。
- f. 注釈は必要に応じて脚注を使用する。この場合も本文と同様に 1.5 行のスペースを空けるが、フォントサイズは 10 ポイントを使用する。

### 6. 著者の氏名の扱いについて

査読者に対しては著者の氏名や所属を公開しないので、原稿の中では著者を推測できるような記述を極力避けること。

### 7. 注意事項

- (1) 他の学会誌や専門誌への同一論文の投稿や、他の学会誌や専門誌で発表した論文を、本学会誌に二重投稿することはできない。
- (2) 論文の書き方は以下に従う。これに合致しない場合、修正を要求したり、編集委員会の判断で修正を行なったりすることがある。
  - a. 英語による論文は原則として『APA 出版マニュアル（第 2 版）(*Publication Manual for the*

*American Psychological Association (6th Ed.)*』にしたがうものとするが、使用言語にかかわらず該当すると思われる項目や、以下に挙げる参考文献リストについては、本執筆要綱に従うものとする。

- b. 本文は節で構成し、各節には 1, 2.3, 3.4.2 のように番号を付ける。
- c. 新仮名遣いと常用漢字を用い、平易な口語体で記す。
- d. 句読点には（日本文の場合も）ピリオドとコンマを用いる。
- e. 例文や箇条書きの項目は、(1), (2), (3)a, (3)b などのように番号をつけ、本文との行間に 1.5 行分のスペースを追加する。また、1 箇所に複数の項目を置く場合は項目間にも同様にスペースを追加する。
- f. 字体、添字、特殊な版組の指定、間違いやすい文字や記号、原稿への修正などは、指示内容を朱書して明確にする。
- g. 人名は原則として原語で表記する。ただし、広く知られているものには片仮名表記を、非ヨーロッパ系言語の人名には欧文表記または片仮名表記を用いてもよい。
- h. 計量単位は原則として SI 単位系に従う。
- i. 脚注には通し番号を付け、本文中の該当箇所にその番号を記す。注釈文は原則として該当ページの 下端に配置するが、それが困難な場合は、次ページの下端に続いて構わない。
- j. 図表
  - (ア) 図表には、「図 1」、「表 2」のように通し番号を付ける。
  - (イ) 図表は本文中の該当箇所に埋め込む。
  - (ウ) 大きさの指定がある場合にはそれを明記する。
  - (エ) 図表に使用するフォントのサイズは 10 ポイントで太字 (bold) にする。

## 8. 参考文献

- (1) 本文中で文献を参照する際は、原則として著者の姓の後に発表年を西暦で記す。より詳しくは以下の要領による。
  - a. 文献を本文の一部として読む場合は、「Chomsky (1995) によれば ...」のように、発表年だけを括弧に入れる。
  - b. そうでない場合は「...が提唱されている（影山・柴谷，1989）」のように、著者名も括弧に入れ、発表年との間をコンマで区切る。
  - c. ページ等を明示する場合は、「Hawkins (2001, p. 123)」のように発表年の後に記す。
  - d. 同一著者の複数文献を一括して参照する場合は、「White (1992, 1996)」, 「(White, 1992, 1996)」のように発表年だけを複数個記す。
  - e. 同一著者による同一発表年の文献は、「Vainikka & Young-Scholten (1996a)」, 「Vainikka & Young-Scholten (1996b)」, 「(Vainikka & Young-Scholten, 1996a, 1996b)」のように、発表年の後に a, bなどを付けて区別する。
  - f. 異なる著者の文献を一組の括弧の中に置く場合、「(阿部 他, 1994; Fodor et al., 1974; Mazuka, 1998, 2000)」のように同一著者ごとにまとめて間をセミコロンで区切る。
- (2) 本文中で参照した文献は本文の後に以下の要領でまとめてリストにする。
  - a. リストのタイトルは「文献」とする。
  - b. 参考文献は、欧文と和文を区別せず、第 1 著者から著者の姓名のアルファベット順に、同一著

者の文献は発表年順に配列する。

- c. 本文中で発表年に a, b など付けた場合は同じ記号を付ける。
- d. 文献番号は付けない。
- e. 各参照文献は、著者の姓名、発表年、表題等の順に記す。
- f. 雑誌名や会議名は略記しない。

(3) 以下に参照文献リストの項目の例を種類別に示す。なお、洋書・雑誌名、雑誌巻はイタリックにすること。

- 定期刊行物の中の論文

Lardiere, D. (1998). Case and tense in the ‘fossilized’ steady state. *Second Language Research*, 14, 1-26.

- 会議録の中の論文

Dekydtspotter, L., Sprouse, R. A., & Leininger, A. (2000). Necessity in grammatical design and L2 acquisition: Quantifier and tense in English-French interlanguage. *Proceedings of the 24th Annual Boston University Conference on Language Development*, 253-264.

- 書籍

White, L. (1989). *Universal Grammar and second language acquisition*. Amsterdam: John Benjamins.  
小林 春美・佐々木 正人（編）（1997）.『子どもたちの言語獲得』. 東京：大修館書店.

- 編集書の中の論文

Minsky, M. (1975). A framework for representing knowledge. In P. Winston (Ed.), *Psychology of computer vision* (pp. XX-YY). New York: McGraw-Hill.  
Schwartz, B. D. (1998). On two hypotheses of “transfer” in L2A: Minimal trees and absolute L1 influence. In S. Flynn, G. Martohardjono & W. O’Neil (Eds.), *The generative study of second language acquisition* (pp. 35-59). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

- 学術的報告書

Rosenschein, S. (1987). *Formal theories of knowledge in AI and robotics, Report No. CSLI-87-84*. Stanford: Center for the Study of Language and Information, Stanford University.

- 学位論文

Montrul, S. A. (1997). *Transitivity alternations in second language acquisition: A crosslinguistic study of English, Spanish, and Turkish*. Doctoral dissertation. Montreal: McGill University.

## 9. 投稿方法

論文は、E メールに添付し、[otaki@kanazawa-gu.ac.jp](mailto:otaki@kanazawa-gu.ac.jp) に送付する。

## 10. 採録や査読状況に関する問い合わせ、とその後の作業

採録の可否については、文書またはメールで連絡する。途中経過については、一切答えられない。論文の採録が決定した場合、匿名の査読者のコメントを参考にして、2回の編集を行う。その後、投稿者は体裁などについて編集担当者からの指示に従う。